

2003 年度 委員会活動成果報告

(2003 年 3 月 31 日作成)

委員会名	高齢者居住小委員会	主 査 名：大原一興
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岬生
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	高齢化の進展する社会において、高齢者のための居住の場は非常に多様化している。次々と新しく施行される施策制度だけではなく、施設から一般住宅まで、また新築から改修まで様々なものがあり、最近はとくに民間の発意による自発的な試みが環境づくりに多くの成果をあげてきている。このような動向を踏まえ、研究の幅広い対象を捉える視点の形成、研究方法の追究を目的としている。	
委員構成 (委員名(所属))	大原一興(横浜国大) 橘弘志(実践女子大) 藤岡泰寛(横浜国大) 浅沼由紀(文化女子大) 在塚礼子(埼玉大) 片岡正喜(九州保健福祉大) 児玉義郎(日本福祉大) 桜井康宏(福井大) 田中直人(摂南大) 沼野夏生(東北工大) 畑聡一(芝浦工大) 三浦研(京都大) 宮崎幸恵(東海学園大) 森一彦(大阪市立大) 横山俊祐(熊本大)	
設置 WG (WG 名：目的)	事例評価WG：高齢者施設および住宅の先進事例の検討・評価をおこなう 文献レビューWG：高齢者居住関連の主要文献のリストと研究視点からのクリティカルレビューをおこなう	
2003 年度予算	5 0 1 , 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会では高齢者居住に関する横断的な議論を深め、先進事例・注目事例の現地調査・検討と評価、高齢者居住に関する研究会の開催、資料集の作成などをおこなってきた。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 各地における高齢者居住の場として、施設と住宅、新規計画されたものと既存の空間の活用によるもの、制度によるものとインフォーマルなもの、など様々な事例を訪問視察し、評価をおこなった。事例評価に当たっては、建築計画、住居学、農村計画、社会学、まちづくり、様々な視点からの評価を行った。 各自の研究の成果報告に基づく研究会「高齢者居住をめぐる計画視点(7)-地域生活の視点からの小規模施設をめぐって」においては、地域生活と小規模多機能の視点から、最新の注目すべき動向を批判的に検討し、議論を深めた。地域における多様な生活ニーズへの対応、住宅による対応の有効性、小規模施設の空間の意義と制度、人間関係づくりからの考察など、実践と理論の一体となった討論が行われた。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 近年の高齢者施設・住宅の先進事例を調査することができ評価検討をおこなったことから、最新の情報を得ることができた。ただし、その記録報告の作成にとどまらず、さらに考察をより深める必要がある。 とくに2004年1月の公開研究会においては、現在その方向性が議論されている今後の高齢者居住のための施設・住宅に関して、興味深い報告と活発な討論をおこなった。ある一定の視点形成、方向性を示し得ることができたと思われる。
その他評価すべき事項	これまでの各自の研究成果と議論の内容を踏まえ、蓄積された活動成果を具体的な刊行物にまとめる時期に来ていると思われるが、このための準備が整った段階にある。また、関連する小委員会との共同した連続研究会として「地域に根ざす高齢者の居住とケアを考えるシリーズ」を企画、実現した。